

# きずな



蓮田・白岡地方ユネスコ協会

## 武蔵野、心の原風景を語る

設立10周年記念講演会  
(兼) 第15回地域文化遺産スタディ  
講師・赤坂憲雄氏(学習院大学教授、  
福島県立博物館館長)

当協会の設立10周年の節目の年に民俗学の権威である先生にご講演を頂きました。冒頭、田村会長から10年を迎えられた事の報告と、当協会を今日迄お支え戴いた全ての皆様への謝辞を申し上げました。次に赤坂先生から東北芸術工科大学から院長時代に白岡在住の故・田村信夫さんとの縁、思い出などが披露され講話が始まりました。

その後2年間赴任の山形から帰郷、武蔵野を掘り起こしたいと国木田独歩の代表作「武蔵野」を熟読しました。独歩の住んだ渋谷付近が当時の武蔵野でありそこには川、谷、草原が存在していた。独歩は明治30年「武蔵野」を執筆したが当時は草原、富士山、月が武蔵野の3要素であり周辺は武蔵の武士団の馬草場として管理されていた。武蔵野を究める為奉職していた大学の学生達と一緒に歩き、草むらから雑木林へと変化していることを発見、自身の育った府中の原風景には田んぼは無く畑、野原、雑木林であり昭和40年頃には武蔵野



平成30年10月27日(土)  
「こもれびの森」にて

が府中周辺に移っていた。雑木林は落葉樹の人工林であり土壌は200〜300年の落葉樹を鋤き込んだ貴重な土から出来上がっていると知った。玉川上水開削により徐々に集落が出来あがり雑木林から宅地に変化、現在は狭山丘陵の周辺が武蔵野となっている。これからも武蔵野を掘り起こす活動を続け将来江戸の東と東京湾を含め武蔵野と関連付けられたらとの希望を持っておられました。先生は福島県立博物館長も兼任されている事から幕末、明治維新にも触れられました。勝者と敗者の歴史感は今も尾を引いている。「勝ち組」は薩摩、長州を中心の政府軍で「明治維新150年」と呼びお祭り騒ぎである。「負け組」は会津中心とした奥羽越列藩同盟の幕府軍で「戊辰戦争150年」と呼んで未だ弔っている。勝者と敗者の差は未だに大きな隔たりがあります。参加者70余名、講演終了後の質疑応答も盛んでした。応対された先生の見識の広さ、話し方は丁寧で参加者一同感銘を受けました。

尚、10周年記念を祝い、小島卓白岡市長・西山蓮田市教育長(中野市長代理)の臨席と丁寧な祝辞も戴き、賛助会員齊藤隆宗議員・同山口京子議員も駆けつけて下さいました。

## 私達の活動10年の軌跡 記念誌発刊に寄せて

平成30年3月29日・  
設立10周年を迎えました。

お支え戴いた皆様に活動の集大成とも云うべき記念誌を上梓出来ず事は誠に光栄であり、感無量であります。平成19年に設立を志し、平成20年1月に設立準備会発足、同年3月に設立となりました。ゼロスタートは厳しいものでした。ユネスコ憲章理念は余りにも遠くに聳え、此の理念を地域で具現化し普及させる事は簡単ではありません。困難な時期に明るい光を灯してくれた方々がおりました。イスカンダール・万亀子女史、活動の基盤作りに全面的に協力してくれた草創期の理事・会員各位のご献身は、思い出すと胸が熱くなります。「私達の活動」と位置づけた4事業も定着しつつあります。



会長 田村 勝彦

柱である世界を知り「国際文化スタディ」わが街を知る「地域文化遺産スタディ」は初期に活動した方々の密かな汗と涙、時としては自己犠牲をも厭わぬ熱意に支えられて来ました。「10年の歩み」(述)活動を継承したい念願で、ユネスコスクールとの協働作業も実施し、ESD普及活動も展開しております。今後も次世代に私達の活動が繋がるよう全身全霊を捧げてまいりたいと存じます。此の冊子が縁で平和への文化を希求・後継する人づくりのきっかけとなれば望外の喜びであります。

# 「つなげよう」とともに語ろう 持続可能な社会を実現するために

## 2018年度関東ブロック・活動研究会 in 茨城

9月8日・9日、茨城県立県民文化センターにおいて開催。1都5県のユネスコ会員等300名が参加して実施、埼玉県からは当協会を含む7協会から33名が参加(当協会は会長を含む9名参加)。開会式に先立ち、代表者会議が行われ、田村会長より2019年度の開催概要を説明しました。特に「地球規模における環境変化」と題するパネルディスカッション用にチラシを作成、配布して参加を呼びかけました。オープニングは国の重要無形文化財「日立風流物」が披露。主催者(日ユ協及び茨城県連)挨拶が続



分科会は4つの分科会が設けられ、埼玉県からは①と③について、発表を行いました。①では飯能市・自由の森学園理事長の鬼沢真之氏により取組中のESD環境教育について発表頂きました。③については、秩父ユ協江田伸男氏が「若者たちの学びと表現―被爆者から若者たちへ」と題して、取組中の、平和教育―原爆ドームの模型作り、被爆者との交流、創作演劇、朗読等の活動が発表されました。他に②「世界遺産への民間ユネスコ協会の関わり―上野三碑の“世界の記憶”登録を例に

して」―成田ユ協の未だ来世遺産と世界遺産活動―更に④「会員の高齢化や情報弱者を克服する手立てとは」―青年ユネスコ活動の発展をめざしたあらたなネットワークづくり―がありました。最後は、分科会や日本ユネスコ国内委員報告等の後、次年度開催地挨拶を田村会長が挨拶しました。埼玉県参加者全員が舞台上で「2019年関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 埼玉(蓮田・白岡)、ひろげよう平和の心―平和の社会を目指し、共に学び、共に語ろう、10月5日～6日、蓮田市総合文化会館・ハストピア」と記した横断幕を掲げ、柴山理事の音頭で「埼玉でおまちしています」とアピールしました。9日は、日ユ協主催のセミナーがあり(当協会からは会長他2名参加)。寺子屋部会・会長笹井宏益氏(玉川大学教授)の講演とカンボジアツアー参加の高校生の報告がありました。

### 寺子屋講座 第10回

講師：尼子日本ユネスコ協会連盟主任  
12月8日・尼子講師を招聘し日本・ユネスコの設立の歴史・ESD(持続可能な開発の為の教育)とSDGs(持続可能な開発目標)の関連、更にユネスコスクールの歴史や認定校の推移について具体例を示され講話を戴きました。1951年に日本がユネスコに加盟承認された当時の貴重な映像も披露、解説頂き、修了後は記念写真の如く講師を交え忘年会を開催。14名の参加者を数え質疑応答も盛んでした。



右：上から田中課長、榎田課長、中野市長、尼子主任、西山教育長、斎藤議員、左：上から熊倉、山口議員、田村福地議員、対馬議員、江口後参加、西山教育長、斎藤、柴山

### 2019年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 埼玉(蓮田・白岡)開催概要案決まる

2018年12月 埼玉県ユネスコ連絡協議会

期日	2019年10月5日(土)～6日(日)
会場	蓮田市総合文化会館(ハストピア) 交流会：近隣を予定
大会テーマ	Peace for Tomorrow 平和な社会を目指し、共に学び、共に語ろう
主催	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、関東ブロックユネスコ連絡協議会、埼玉県ユネスコ連絡協議会
主管ユ協	蓮田・白岡地方ユネスコ協会
後援(予定)	埼玉県、埼玉県教育委員会、蓮田市、蓮田市教育委員会、白岡市、白岡市教育委員会、国立極地研究所
分科会	(1)世界寺子屋運動と地域ユ協の取り組み (2)ユネスコスクールとユ協の連携 (3)ユネスコ活動の活性化と会員増に向けて (4)世界遺産・未来遺産
参加費	会員：4,000円、青年会員：2,000円、学生：無料、一般(申し込み制)：無料
交流会費	会員：5,000円
開催趣旨	(1)会員がユネスコ活動に関する最新の情報や知識を学ぶ (2)民間ユネスコ活動を広く市民に周知し、理解を深めてもらう (3)開催地蓮田市、白岡市の特色や魅力を発信する
日程概要	第1日：10月5日(土) 蓮田市総合文化会館(ハストピア) ときどきホール・会議室 青年ユネスコ活動研修会 10:30～11:40 受付 10:30～12:00 オープニング 12:00～12:30 開会式 12:35～13:15 ・ユネスコの歌斉唱・開会宣言 ・主催者挨拶・来賓挨拶・紹介 ・パネルディスカッション 13:20～14:40 「地球規模における環境変化」-南極からの警鐘 ・分科会(各会議室) 14:50～16:20 テーマ(1)～(4) 閉会式 16:40～17:15 ・日本ユネスコ国内委員報告・分科会報告 ・次年度開催地案内挨拶 ・開会宣言 移動 17:20～17:55 交流会 18:00～20:00 第2日：10月6日(日) 蓮田市総合文化会館(ハストピア) ・代表者会議・日本ユネスコ協会連盟主催セミナー
問い合わせ	埼玉県ユネスコ連絡協議会 会長 田村 勝彦 ☎080-3005-6005 同上 事務局長 熊倉 晃 ☎090-2253-5367

## 会員紹介



① 江原万菜 (えはらまな)

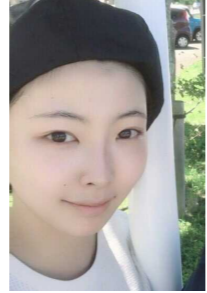
② 埼玉県さいたま市在住の現在高校二年生  
③ 小学校低学年の時から文化遺産巡りに参加させていただき、世界遺産になる前の富岡製糸場、埼玉古墳群、国立極地研究所南極・北極科学館では、お話を伺い深刻化している環境問題についてとても興味深く、勉強になりました。これからも埼玉の学生ボランティアの1人としてお手伝いをしていきたいと思っております。



① 田中和之 (たなかかずゆき)

② 埼玉県入間市出身、蓮田市に奉職後、3年間は蓮田、その後は白岡に住んでいます。③ 蓮田・白岡地方ユネスコ協会設立直後から、「地域文化遺産スタディ」などでは裏方としてお手伝いはさせていたのですが、今回入会させていただきました。2019年は関東ブロック研究会も蓮田で開催されます。どこまで活動に寄与できるかは慣れずわかってませんが、よろしくお願ひいたします。

①執筆者  
②今までの歩み  
③ユネスコ活動への抱負  
(敬称は省略しています。)



① 加瀬桃子 (かせももこ)

ユネスコ協会への入会のきっかけとなったのは大学での学びです。社会学を専攻していることもあって、日本社会の抱える貧困などの社会問題について議論をする場が増えました。その中で、自分も何か役に立つこと出さないかもという思いを抱き始め、ボランティア活動という1つの方法に興味を持ちました。趣味は、骨董市や蚤の市巡りです。微力ながら頑張りたいと思っております。これからよろしくお願ひいたします。

## 「世界の抱えている問題を知り、解決に向けてできることを考えよう！」

講師：JICAソーシャルワーカーボランティア 深瀬真希さん  
ユネスコスクール支援事業 蓮田中央小学校

11月19日午後、同小学校体育館において、4年生く6年生全児童を対象に「世界の抱えている問題を知り、解決に向けてできることを考えよう！」と題した講演会が開催されました。講師はJICAのソーシャルワーカーのボランティアとしてスリランカに2年間派遣された深瀬 真希さん(さいたま市在住)です。深瀬さんは、スリランカの民族衣装であるサリーを身に付けて、児童たちに、スリランカの世界地図上の位置、面積、気候、言語、産業、民族構成、食べ物等に関して映像によるクイズ形式を用いながらスリランカ国の紹介を進めていきました。

お話の後半は深瀬さんがソーシャルワーカーとして障害者施設・高齢者施設で取り組んだ様々な活動(施設の清掃、体操指導、病院への付き添いなど)と日本と比較して遅れている社会福祉サービスの背景(経済事情、人的資源の不足、教育面の遅れなど)を解りやすく解説。

最後のまとめとして、衣服や食べ物を例に挙げて、世界は広いが、繋がって、食べ物に関するクイズで朝食、昼食、夕食の3食ともカレーを食べていると知った時には、「ええ!!」と驚きの声があがる場面もありました。同校は3年前にユネスコスクールとして認定され、今回も国際理解の一助になったものと確信しています。



同校でのユネスコ講演会は今回で3回目、児童たちはどのクイズにも積極的に挙手をして答えていました。食べ物に関するクイズで朝食、昼食、夕食の3食ともカレーを食べていると知った時には、「ええ!!」と驚きの声があがる場面もありました。同校は3年前にユネスコスクールとして認定され、今回も国際理解の一助になったものと確信しています。

# 古河公方ゆかりの地を訪ねて

## 第19回文化遺産めぐり

12月1日(土)午後、古河駅に田村会長以下10名が参加した。2月に講演を頂いた鷲尾先生に引率していただき古河歴史探りに出発。先ずは駅前通りに出た途端に、古河提灯竿もみまつり、の会場に・・・これは帰りお祭りが楽しみ、歴史遺産とともに文化遺産にも出会うかと期待が膨らむ。日光街道を南下すると、高札場跡、本陣跡、御馳走番所跡等を通り過ぎ、古河城お茶屋口に到達。江戸時代はここから將軍が古河城へ向かった道に入る。200mほど歩くと出城の堀跡が見え、目



鷲尾先生に史跡の説明を聞く

の前に鷹見泉石記念館の歴史漂う旧宅に入る。鷹見泉石は渡辺華山が描いた人物像で誰もが一度は見たことがある人物であるが、詳細を後で知り驚きを禁じ得なかった。隣の奥原晴湖画室を一周して古河歴史博物館に入館する。ちょうど鷹見泉石の特別展示が開催されており、泉石の幕末における彼の偉大な足跡と知友関係の広さを知る。この博物館では古河の歴史や文人たち、日本で2番目の腑分けを行った河口信任、雪の結晶の研究で有名な大名「土井利位」の成果も展示されている。



改修された鷹見泉石記念館

その後、寺町を通り古河街角美術館、永井路子旧宅を拝見し散策は終了した。いずれの箇所でも鷲尾先生の詳細なご説明により個人での探索とは次元の異なる理解を得ることができた。古河駅に戻る途中に昔の建物を残し飲食店として使われている一軒で先生を交え懇親とお礼の会を持ち、多くの歴史的な建造物や文化財をいかにして保存してきたか、そのご努力を鷲尾先生から教えていただいた。帰りの古河駅までの300mほどは最高潮となった古河提灯竿もみまつりを楽しみながらのお開きとなった。

(当協会の文化遺産めぐりは必ず学芸員、ガイドの同伴があり、より深く広い知識が得られます。是非ご参加を)

「訂正とお詫び」  
会報19号の記事「古河公方の時代とその周辺地域」中、「久喜の甘棠院では、古河公方5代義氏」とあるのは「2代政氏」の間違いでしたので訂正します。

# 「10年後の君たちへ」

ユネスコスクール支援事業  
蓮田中学校  
講師：元青年海外協力隊員 原小枝さん

10月10日(水)蓮田市立蓮田中学校(ユネスコスクール校)にて「ふれあい講演会」JICA元青年海外協力隊員原小枝(ハラサエ)さんを講師として「10年後のあなたへ」と題して講演会が実施されました。

同校室内体育館にて全校生徒、PTA(当日授業参観日)、先生、当ユネスコ会員4名を含む450名ほどが集まり、約1時間30分ほど熱のこもった講演でした。

主に、南米・パナマ共和国にて村落開発隊として活躍されたお話でした。南米・パナマ共和国は北米と南米との中間に位置し日本ではパナマ運河が広く知られており首都パナマシティのスライドでは近代的な街のイメージでした。首都を離れて賑わいのところから少し落差が感じられるところで活躍されたようです。

長くスペインの統治下で言語はスペイン語でキリスト教国の位置づけで、季節が乾期(4ヶ月)雨期(8ヶ月)とはつきり分かれており、雪を見たことが無いお国柄の様子



10年後の君たちへ  
パナマ共和国より  
元JICA村落開発普及員  
原小枝さん

活躍されたお話でした。南米・パナマ共和国は北米と南米との中間に位置し日本ではパナマ運河が広く知られており首都パナマシティのスライドでは近代的な街のイメージでした。首都を離れて賑わいのところから少し落差が感じられるところで活躍されたようです。

です。漁獲量は豊富で食材には困りませんが、国全体に肥満の問題があるとの事でした。環境的に一番問題なのは「ゴミのポイ捨て」です。一般的にゴミ箱が設置されていない、ゴミが捨てられていない、ゴミは捨てられていない、ゴミは捨てられていないから・・・と考えられている意識が問題のようです。

講師と生徒がひとつひとつの問題を質疑応答解答していく進め方で、年齢的に講師との親近感があり楽しいわかりやすい講義でした。

### 編集後記

今年の漢字「災」の字の通り今年一年は「西日本豪雨」「記録的猛暑」「北海道胆振東部地震」と災害の多い年でした。被害にあわれたかた皆様に心よりお見舞い申し上げます。今年、新元号元年がよい年となりますようご祈念申し上げます。

(理事一同)